

テーマ：「自己紹介に使える簡単なフレーズ」

我（ウォー）：私
你（ニー）：あなた
他（ター）：彼
她（ター）：彼女
它（ター）：それ（動物・植物・無生物）



議事 ガバナー公式訪問

国際ロータリー 第2620地区 2025-2026年度ガバナー 稲葉雅之様 卓話

R I会長 フランチェスコ・アレツォ氏からのメッセージは「良いことのために手を取りあおう」です。これは、共感を持って団結し、笑顔で奉仕につなげることを意味します。他の団体や、過去・未来のリーダーともパートナーシップを組み、時間と空間を超えて手を携えていこうというメッセージです。

これに伴い、「革新」「継続性」「パートナーシップ」が成長のための不可欠な3つの柱として示されています。特に会員増強は最重要課題であり、全ての活動を会員増強につなげる意識が求められています。

第2620地区としては、これに応える形で「The First Act Rotarians（ロータリアンから始めよう）」というメッセージを掲げました。待つのではなく、私たちロータリアンから率先して手を差し伸べようという意味です

12月の地区大会（伊豆開催）でもこのテーマを掲げてまいります。

本日は「奉仕、ある視点」として、3つの視点を提示させていただきます。



視点1：ミャンマー、忘れられたロヒンギャ問題

多くのクラブがミャンマー支援を行っていますが、最も困難な状況にあるロヒンギャ族への支援は十分と言えるでしょうか。私の所属クラブでもミャンマー支援を行っていますが、対象はビルマ族の居住区でした。支援のしやすさだけでなく、本当に救済を必要としている人々へ目が向いているか、優先順位を再考する視点が必要です。

また、身近な外国人労働者との対話を通じた平和啓発活動も、新たな奉仕の形になり得ると考えます。

視点2：会社でワクチン

「古着でワクチン」に加え、今年度は「会社でワクチン」事業を実施します。社用車等に貼るステッカーを2,000円で販売し、原価を除く収益をポリオ撲滅（財団）へ寄付する仕組みです。ロータリアンだけでなく地域の企業にも協力を仰ぎ、地区ホームページで社名を顕彰することで、公共イメージの向上と参加基盤の拡大を図ります。

※加藤会長へステッカーと古着回収袋を贈呈

視点3：重点分野の優先順位

ロータリーには7つの重点分野がありますが、「平和構築」こそが全ての基盤であると考えます。紛争地域ではワクチンの接種も、井戸の掘削も、教育も困難です。平和であればこそ、他の重点分野の課題解決が進みます。

平和の実現こそが、最も効果的な奉仕活動であるという視点です。

最後に、米山梅吉翁の言葉「ロータリーの例会は、人生の道場、人づくりの修練の場である」をご紹介します。修練の先に真の楽しさを感じています。1年間、皆様と手を取り合い、楽しみながら活動してまいりたいと思います。